

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

祝クリスマス

「見よ、おとめが身ごもって男の子を生む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神はわれわれと共におられる」という意味である。(マタイによる福音書1:23)

イスラエルの族長たちが試練の旅の途上にあつた時、またモーセや預言者エレミヤなどが困難な使命を担うにあたり、神から語りかけられたのは「私はあなたと共にいる」という言葉でした。この神の言葉は何にも増して励まし、慰めになり、生きる支えとなった筈です。

そして聖書全体を通して神が人間に語りかけておられるのは、この「私はあなたと共にいる」というメッセージと言えます。

共にいてくださる神

ご降誕の出来事とは、神が人となり給いて、御子としてこの世に来られた出来事です。

この神の御子イエスの御降誕は、まさに「インマヌエル」、即ち「神は我々と共におられる」ことが成就したことを示すものです。

しかしイエスの生まれた時代について聖書は次の様に伝えています。「『ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。』これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であつた。(マタイ2:2-3)」。

星をしるべに御子を拝しに来た東方の学者たちの言葉に、ヘロデ王は自らの地位を脅かす存在の出現に不安を抱き、エルサレムの人々はこの先起こり得る権力闘争を恐れたのでしょう。

それ以外にも様々な恐れや不安が渦巻く世界と時代のただ中に御子は来られたのでした。

そしてこのことは今現在も変わりません。殊に今年起きたロシアのウクライナ侵攻には心が痛みます。国家間の対立を武力でもって決しようとする風潮が強まっているようです。

また温暖化による気候変動の解決のためにはもはや一刻の猶予もないとされています。

神と共に歩んで行くために

そうした世界の苦しみや恐れや不安のなかにあつて、クリスマスの喜びとは、それらに背を向けて現実逃避するためのものではありません。

神がそれらのすべて、即ち人類の罪をご自分の身に負うことによって、私たちに救いへと導くために御子を送ってくださったことを信じて喜び、感謝し、祝うものです。

そして御降誕の出来事の内に示された「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」という神の言葉を確かに受けとめて、私たち自身がその希望と喜びのメッセージを世に示していく器とされて神と共に歩むこと、それがクリスマスの祝福に他なりません。

共によきクリスマスを迎えましょう。

クリスマス礼拝のご案内

12月24日(土)

18:00 降誕日第1聖餐式

20:00 降誕日第2聖餐式

12月25日(日)

10:30 降誕日聖餐式(主礼拝)

※昨年に続き、クリスマス祝会はありません。